

個人質問

議会事務局
処理欄

令和 3年 5月19日8時30分 受付

質問 順位 第 12 番

武豊町議会議長 石原 壽朗 殿

武豊町議会議員 櫻井雅美

一般質問の通告について

令和3年第2回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項

質問の要旨(具体的にご記入願います)

1. ダブルケア・ヤングケアラーについて

【趣旨説明】

ダブルケアとは、子育てと親・祖父母の世話・見守り・介護が同時期に発生する状況であり、2018年の調査ではダブルケアを一度でも経験したことがある人は29.1%、未経験者で「将来的にダブルケアに直面する」と回答した人も合わせると、36.6%の人がダブルケアを危惧しています。

2025年には、「団塊の世代」の全員が後期高齢者に達します。現在の40代の多くは、「団塊ジュニア」に該当します。ダブルケアはこの団塊ジュニアの負担を特に増大させると考えられています。また、就労を伴うダブルケアはさらに負担が大きく、離職・児童虐待・介護うつ・介護DVなど多くの社会問題を引き起こす可能性があります。

また、両親や祖父母、きょうだいの世話や介護などを行っている子どもは「ヤングケアラー」と呼ばれ、厚生労働省と文部科学省は、昨年12月から今年1月にかけて初めての実態調査を行いました。その割合は、中学生が5.7%でおよそ17人に1人、全日制の高校生が4.1%でおよそ24人に1人、定時制高校が8.5%でおよそ12人に1人、通信制高校が11%でおよそ9人に1人でした。また、「相談した経験がない」という生徒は、中高生ともに6割を超えました。

厚生労働副大臣は「調査結果に衝撃を受けた。子どもらしい生活を送れず、誰にも相談できずに1人で耐えていることを想像すると、胸が締めつけられる思いになる。これまでヤングケアラーに着目した対策を打たなかったことが悔やまれるが、即効性のある対策を急ピッチで検討したい」と述べました。

介護負担は、子どもの学力・就学機会の制限、友人関係の乏しさからの孤独、社会的な孤立につながることも問題視されています。また、長期化によって就労・結婚にも影響を及ぼすと考えられます。地域や学校で認知されにくいことも、ヤングケアラーの問題を深刻化させている原因のひとつです。

そこで以下質問します。

【質問事項】

- ①現在も入所待機者が多く見える中、今後はさらに施設入所希望者は増加すると考えられるがどのように対応しますか。
- ②在宅介護を支援する取り組みである「小規模多機能型居宅介護」について、本町ではどのように考えていますか。
- ③本町におけるダブルケア・ヤングケアの担当課、相談窓口は。
- ④学校において、アセスメントシートやチェックリストなどのツールを使用し、ヤングケアラーを発見する取り組みは実施していますか。